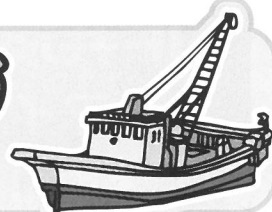




何でも魚^{うお}ツチング



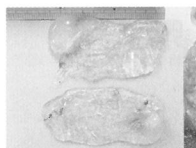
珍生物？サルパについて

昨年(2016年)の12月に底びき網に大量に入り、底びき網漁業者の皆さんを悩ませたサルパですが、新年明けて1月4日の初漁では、残骸が網に絡むものの、操業への影響はなくなったとのことです。

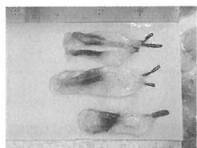
漁業の妨げになり迷惑千万な生き物であるサルパですが、対策を立てる上で相手を知ることも必要ですので、今回はサルパなる生き物をウオッチングしました。

●サルパとは

ホヤの仲間、海中を漂う大型の動物プランクトンです。今回、庄内浜を含めた日本海側沿岸で発生したのは「オオサルパ」という種類で、大きさは10cm以上に達しサルパの仲間では最も大型の種類です。



連鎖個体



単独個体

●サルパの増え方

オスとメスの違いある連鎖個体と性のない単独個体があり、連鎖個体は多数のサルパが数珠のようにつながり、互いに受精して単独個体を生みだします。単独個体は成長後、一生を終えます。

●サルパの生態

サルパは、生きているときは海中に浮遊し、移動します。死んだものは海底に落ちて堆積します。

●何を食べている？

餌の9割は、珪藻と呼ばれる海中の植物プランクトン(大きさ約0.2mm)であるとの報告があります。

●発生時期

一般には、春季に多く発生するといわれています。これは、特に冬季に降雪量が多く春季に雪解け水によって日本海に多くの栄養分が運ばれると、植物プランクトンが大増殖し、これを餌とするサルパが増えるというものです。

●成長

大型のプランクトンの中では、最も成長速度が速いといわれています。

●寿命

プランクトンの専門家に聞いたところ、詳しいことは不明だが、急速に増え

ていなくなることから、あまり長くはないのではないかとのことです。

●生息する海域

主に世界の暖海に生息しますが、冷水域にも生息します。

●どこからやって来る？

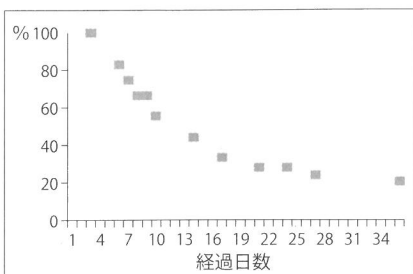
東シナ海が発生源と書いたものもありますが、プランクトンの専門家に聞いたところ、詳しいことはわかっていないそうです。おそらく、種になる集団が対馬暖流に乗って日本海に入ってきて、日本海で増えるのではないかとのことでした。

●何に食べられている？

サバ、カワハギ、マンボウ、ウミガメにとって大切な餌の一つであるといわれています。

●サルパ死骸の分解

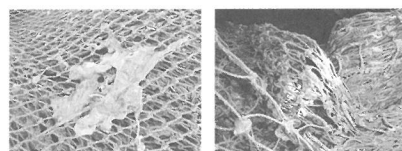
水産試験場において、入網したサルパ死骸をサンプルとして、分解状況を観察したところ、港内(水温13℃=表面水温)では、13日目には消失しました。一方、室内(水温4℃=11月の水深200m水温に相当)では、5日後にはバラバラになり、15日目には当初重量の40%ほどに減少しましたが、36日たっても消失はしていません。ただし、実際の海域では微生物による分解や、潮の流れなど室内とは異なる環境により、これより早く分解が進むことが考えられます。



サルパ死骸の重量の変化(水温4℃)

●分解促進の試み

漁網に絡まったサルパが網を重くして操業の妨げになることから、漁網に絡まったサルパを速やかになくせる方法がないか試みました。

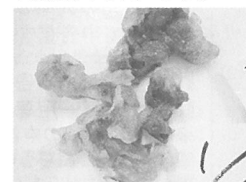


漁網に絡まったサルパ

一つは、淡水にサルパサンプルを入れて海水との分解を比較しましたが、3日目の重量は淡水中の方が海中のものより軽かったものの、以降は両者の重量に差はありませんでした。

もう一つの試みは、塩分でサルパから水分がしみだしてしままいかと期待して、サルパを塩にまぶしてみましたが、2週間たっても大きな変化はありませんでした。

物理的に取り除くのが、今のところの対策のようです。



サルパの塩もみ！？

●死んだ後どうなる？

サルパの死骸や糞は海底に沈んで分解されることにより、有機物を海底に供給します。この有機物の一部は海底の様々な生き物(ヒトデや多毛類など底生生物)に食べられ、その底生生物はズワイガニ、アカエビ、カレイ等のえさになることが考えられます。

水産試験場 平野 央

参考資料

- 1 阿部(1979)山形県海産無脊椎動物
- 2 井口(2006) JOURNAL OF PLANKTON RESEARCH
- 3 熊木(2007) <http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/sarupa.html>

●ぎょさいとぷらすで安心操業